

大桑村誌 上巻 目次

口 絵

発刊にあたつて

第一編 自然

第一章 位置と面積	3
一位 置	3
二面 積	5
第二章 地形 地質	6
一地 形	6
二地 質	9
第三章 気象	19
第四章 植物	23
一分 布	23

大桑村誌 下巻 目次

第五章 動物	52
一 哺乳類	52
二 鳥類	55
三 爬虫類	65
四 両生類	55
五 魚類	65
六 昆虫類	67

参考文献 資料

第二編 原始時代の木曽と大桑村	69
第一章 大桑村の原始 古代	66

一 旧石器時代	97	第五章 木曽家の歴代と木曽氏	164
二 縄文時代	98	第六章 豊臣氏領時代	188
三 弥生時代	114	第七章 関ヶ原の戦と木曽	190
四 古墳～奈良時代	116		
五 平安時代～中世	117		
第二章 大桑村の遺跡調査	130	第四編 街道と山林の歴史	
第三編 いにしえの木曽と大桑村		第一章 徳川治領時代の幕開け	195
第一章 「きそ」の文字と語源	145	一 德川家康領時代	197
第二章 いにしえの道	147	二 尾張藩領下時代	200
一 東山道	147	第二章 街道と宿場	
二 岐蘇山道と吉蘇路	148	一 野尻 須原間の街道	207
第三章 木曽の所属の移り変わ り	152	二 宿場の機構	207
第四章 木曽の庄園と大桑村	155	三 宿役人年表	211
		四 在郷村役年表	213
		五 願文書	216
		六 伝馬制度	218

第五章 木曽家の歴代と木曽氏	164	第一章 徳川治領時代の幕開け	195
第六章 豊臣氏領時代	188	一 德川家康領時代	197
第七章 関ヶ原の戦と木曽	190	二 尾張藩領下時代	200
第四編 街道と山林の歴史		第二章 街道と宿場	
第一章 徳川治領時代の幕開け	195	一 野尻 須原間の街道	207
第二章 街道と宿場		二 宿場の機構	207
一 野尻 須原間の街道	207	三 宿役人年表	211
二 宿場の機構	207	四 在郷村役年表	213
三 宿役人年表	211	五 願文書	216
四 在郷村役年表	213	六 伝馬制度	218

七 助郷制度	223
八 宿泊休憩施設	232
九 特別大通行	241
十 宗門人別	247
十一 貢 租	250
十二 災 害	259
十三 御神木行事	318
十四 大桑木工業協同組合の沿革	312
十五 大桑木材生産協同組合の沿革	309
十六 業界の現況と今後の展望	308
九 木曽五木	322
十 木材統治下	321
十一 諸書式集	312
十二 風倒木処理事業	316
十三 御神木行事	318
十四 大桑木工業協同組合の沿革	320
十五 大桑木材生産協同組合の沿革	323
十六 業界の現況と今後の展望	324
第三章 木曽山の変遷	266
一 薩有林とそれまでの過程	266
二 木曽式伐木運材法	277
三 願文書	280
四 国有林の成立過程	283
五 御料林の成立過程	285
(+) 哀願運動	288
(+) 御下賜金制度の設定	290
六 御料局野尻出張所の歩み	291
七 野尻営林署の歩み	298
八 歴代署(所)長名簿	307

第五編 近代の歩み

第一章 新時代への動き

一 幕末の動乱	335
(+) ベリーの来航	335
(+) 皇女和宮の降嫁(中山道通過)	337

(+) 日本年号時代順一覧 329
 (-) 歴史上の度量衡及び江戸の貨幣 331

参考文献

第三章 木曽山の変遷

一 薩有林とそれまでの過程

二 木曽式伐木運材法

三 願文書

四 国有林の成立過程

五 御料林の成立過程

(+) 哀願運動

(+) 御下賜金制度の設定

六 御料局野尻出張所の歩み

七 野尻営林署の歩み

八 歴代署(所)長名簿

(+) 皇女和宮の降嫁(中山道通過)

(三) 降札騒ぎ………	344	四 郡制と郡役所 戸長役場の設置 ……	391
(四) 東征軍のこと………	345	五 町村分離と聯合村設立 ……	393
(五) にせ勅使の通過………	345	六 土地制度と地租改正 ……	394
(六) 東山道軍の通過………	346	(一) 地租改正………	395
(七) 北越 奥州征伐と木曽の従軍………	347	(二) 地租改正事業の経過………	396
(八) 農兵の徵集………	348		
(九) 農兵反対の一揆………	351		
(十) 一揆の首謀者と処罰………	353		
(十一) 慶応の須原宿大火………	355		
(十二) 廃藩置県………	371		
(十三) 戸籍法の制定………	373		
(十四) 大 小区制への移行………	374		
(十五) 村々の合併 分離運動………	376		
二 大桑村の誕生と村名の由来………	379		
三 新村発足当時の村勢概要………	380		
第二章 明治維新と大桑 ………	365	第三章 徵兵令と兵役 ………	399
一 進む変革と諸制度の整備………	365	一 徵兵令の發布	399
(一) 明治新政府の発足………	365	二 兵役と軍組織	400
(二) 百姓町人の旧習廃止令………	371	三 戰争と事変	402
(三) 廃藩置県………	371	(一) 越後(北越)征伐と西南戦役………	402
(四) 戸籍法の制定………	373	(二) 日清 日露戦争………	403
(五) 濟南事変と満洲事変………	407	(三) 青島とシベリア出兵………	406
(六) 日中戦争(日華)と太平洋戦争………	408	(四) 大桑村の戦没者(北越戦争以後太平洋戦争まで)………	409
四 忠魂碑の建立	416		
五 郡忠靈殿の創祀	416		

第四章 町村再合併と新たな出発

(一) 町村制の施行	419
(二) 郡制実施から廃止まで	419
(三) 郡名改称願いと地方事務所の設置	422
(四) 郡名改称の運動	424
(五) 地方事務所の設置	428
第五章 山林と官民有区分調査	
(一) その他	428
(二) 林野の官民有区分と地租改正	428
(三) 明山復古運動	428
(四) 本山盛徳の官林調査(官林・公有地区分 調査)	431
(五) 林野改租の問題点	434
(六) 官林管理の変遷	435
第六章 木曽の衛生行政	
(一) 明治維新前後の衛生状態	460
(二) 木曽総管所と施薬院	462
(三) 筑摩県公立福島病院	464
第七章 交通の変遷と明治天皇のご巡幸	

(一) 山林局長への歎願と区分再調の請願 435

(二) 官林境界調査と立会い問題 442

(三) 再調査請願書の却下 443

(四) 猿沢官林境界紛争事件

(五) 事件の概略 444

(六) 伐木の実態 445

(七) 長野村における官林境界調査 450

(八) 五木停止木の数量相違 451

(九) 地元人民の請願と処分 453

(十) 境界の確定 455

(十一) 部落有財産統一と入会権問題

(十二) 457

二 明治十四年の官林境界調査
(一) 官林管理の変遷

のご巡幸

一 明治初期における道路	467
二 明治天皇ご巡幸と木曽路	469
三 明治から大正にかけての道路整備	482
四 大桑橋の流失と架替	484
五 交通機関	485
(一) 人力車と馬車	485
(二) 運送会社の設立とその変遷	487
(三) 駅伝取締所の設立	490
(四) 内国通運会社と内外用達会社	491
六 大正時代の道路交通と取締り	493
第八章 鉄道の開通	497
一 中山道鉄道の敷設計画	497
二 鉄道招致運動と結果	501
(一) 第一期運動について	501
(二) 第二期運動について	509
(三) 第三期運動と招致決定	515
三 線路工事の布設経過	524

第九章 通信制度の変遷

一 郵便局の開設と郵便業務	540
二 電信電話の開通と普及	544
三 電話の設備と寄付	546

第十章 災害と消防

一 災害の記録	549
二 昭和十八年の大島大火	552
三 大正十二年の大災害について	554
(一) 災害の発生状況と被害	555
(二) 各地区の被害と状況	559
(三) 鉄道の被害	566
(四) 通信機関等の被害	571
(五) 当局の応急対策	571
(六) 救援と同情	572
(七) 失意と感謝と復興	573
(八) 水害記念碑の建立	574
四 関東大震災について	575

五 消防の歴史	579
(一) 近代消防組織の発足	
(二) 須原消防組ほかの発足	579
(三) 公設消防組の維持と費用負担	
(四) 戦時下の消防と警防団	583
(五) 林野消防と器具整備	588
第十一章 大桑の諸産業	595
一 明治初期における諸物産とその状況	595
二 村人の生業	597
三 開産社と生業資金	601
四 農業の推移	603
(一) 農家の平均耕作反別	603
五 養蚕の変遷	605
六 大桑村の養蚕業	612
七 蚕種と風穴	619
八 真綿	624
九 木曾の製糸業と大桑村の推移	637
十 製糸業の組織と規則	
(一) 生糸改会社の設立	637
(二) 生糸取締規則の廃止	638
(三) 生糸改所と友誼社の設立	639
(四) 生糸改所の存廃問題	639
(五) 生糸同業組合(信西社)と蚕糸業組合	643
(六) 長野県蚕糸業組合の廃止	647
十一 鉄道の開通と製糸業	648
十二 糸価の変動	649
十三 製糸技術とその他の変遷	651
(一) 殺蛹	651
(二) 乾繭	652
(三) 選繭	653
十四 繰糸法と繰糸器械	653
(一) 燃料について	655
(二) 原動力	656
(三) 生糸整理と共同揚返し	656
第十二章 御料林の推移と事件	657
(一) 官林から御料林へ	657

(一) 接続民有林野の買上げ拒否	658	(一) 境界改定哀願運動と調査立会拒否の陳情	697
(二) 旧官民有境界改定の哀願運動	659	(二) 町村長集会の調査立会受諾と拒否事件	698
(三) 牛丸茂右衛門らの下戻し活動	660	(三) 大桑村八ヶ沢問題	699
(四) 官民境界譲謬訂正による下戻し運動	668	(一) 盗伐問題と御料林守護取締規約	
(五) 息詰まる陳情行動	669	(二) 藩政時代と明治期の盗伐	700
(六) 哀願書の却下	670	(三) 盗伐に関する待罪書と刑罰	701
(七) 哀願運動の方向転換	672	(四) 木曾南部地域の盗伐	703
(一) 御下賜金をめぐつて	675	(一) 御料林守護取締規約の締結と励行	704
(二) 御下賜金の令達	677	(二) 規約の励行と督励	708
(三) 御下賜金の伝達式と紀念日	678	(三) 守護取締規約準則の制定と締結	704
(四) 町村における御下賜金の取り扱い	678	(四) 守護取締規約の整備強化	708
(五) 御下賜金の分配	679	(六) 守護取締規約と御料局の対応	710
(六) 御下賜金の増額と継続及び特別御下賜金	684		
(七) 恩賜紀念林の造成	684		
(八) 恩賜紀念財産の蓄積	690		
(九) 島崎広助の生い立ち	691		
(十) 官民調和への運動	692		
(十一) 境界調査立会拒否問題について	695		

第十三章 御料林の経営と推移

一 御料林編入前の木曽谷林政の沿革	712
二 御料局木曽支庁の福島町設置	713
三 御料林の編入と面積	714
四 神宮備林の設定	715
五 造林と苗圃	716

